

発行
福井県大野市天師町1番1号
大野市役所
電話(代) 6-1111
郵便番号 912
印刷 松浦印刷所



5月の人口の動き

出生	男 31	女 25	計 56
死亡	〃 14	〃 19	〃 33
転入	〃 76	〃 79	〃 155
転出	〃 64	〃 76	〃 140
世帯数	9,995		
人口	42,887		
男	20,547	女	22,340

新しい大野市の門出

7月1日 西谷村との合併成る

7月1日、大野市と西谷村の合併が成立。この日午前10時30分から市民会館で新市の門出を祝う合併式典が催されました。昭和29年7月1日、2町6カ村が合併し、大野市が誕生してからちょうど17年目です。合併までの歩み、旧西谷村のあらましなどをご紹介します。



堅い握手で発展を約束 市長と旧村長・議長

合併記念式には、寺島市長・高田市議会議員、旧西谷村の山本村長・木下議長をはじめ、福田・堂森両代議員、須知副知事、笠羽県議会議長ら多数の来賓と関係の市民約300人が出席して、新しい大野市の門出を祝いました。

市長は「合併までの各位のご協力に感謝します。40年9月の大災害以来、苦難な道を歩まれた住民の心中をお察しするとき、責任の重大さを痛感します。今後は移住された方々の福祉増進を目標として、互いに力を合わせ奥地開発に積極的に取り組んでまいります。

市民一同、移住されたみなさんを心か

らお迎えし、これからのご活躍をお祈りします」と式辞を述べました。

山本旧村長は「あの災害が原因となって、全村水没、移住という異常なこととなりました。当時の村民救済のあたたい近隣愛に深くお礼を申し上げます。

昔から大野とはすべての面でつながりが深く、住民のほとんどが市民の仲間入りをしたのでご支援をお願いします」とあいさつしました。

このあと、市長から旧村長・議長に感謝状と記念品を贈り、「旧西谷村をよろしく一発展のため努めます」と互いに堅い握手をかわしました。

各来賓もそれぞれお祝いのことばを述べ、最後に須知副知事の音頭で、新しく



▲ がっちり握手する寺島市長と山本旧村長
◀ 合併記念式典のひとつ

生まれ変わった大野市の前途を祝って万歳を三唱し、式を閉じました。

面積は全国第20位

大野市の面積343.56平方キロメートルと旧西谷村の面積198.1平方キロメートルをあわせて、新市の面積は541.66平方キロメートルとなり全国でも20番目の広大な市になりました。

旧西谷村の人口は、44年1月末現在で947人、このうち約650人(70%)が大野市民となられ、あとの人はそれぞれ県内、外へ移住されました。

また、約949%の村有林を引き継ぎましたので、山林資源が豊かになりました。

合併までの経過

西谷村は明治22年村制がしかれてから小さいながらも健全な山村として歩んできました。ところが、あの一昼夜に1,047ミリという40年9月14日からの集中豪雨で、184戸が流失・埋没という一瞬の出来事が村の運命を変えてしまいました。

「再建か廃村か」の別れ道にたつて村は検討の末、笹又山ニュータウン計画を発表、再建に踏み ※【2面へ続く】

西谷村よ！ さようなら 合併を前に解村式

合併とはひと足先の6月21日、千有余年の歴史に終りを告げる西谷村の解村式が、大野市民会館で開かれました。西谷村民およそ500人と、須知副知事、笠羽県議会議長、寺島大野市長、高田市議会議長ら約100人の来賓が出席して、やがて真名川ダムの湖底に沈む「ふるさと」に尽きぬ名ごりを惜しみ合いました。

山本満村長は、長い村の歴史をふり返りながら「40年9月の集中豪雨の際には大野市をはじめ、国や県、全国のみなさんからあたたかい励ましを受け感謝しています。村民一丸となって再建を決意しましたが、ダム建設で進路が変わりました。補償交渉も村民の団結と関係当局のご理解のもと、前例のない程早く妥結。これでふるさとともお別れですが、今後も誠実を信条として、強く正しく生きてく

ださい」と最後の式辞を述べられました。来賓もまたそれぞれ別れと励ましのことを贈りました。市長は、「ふるさとに別れを告げられることはご同情に堪えません。7月1日には、村民の大部分の方が大野市民となられ、豊富な山林・鉱物・観光資源を引き継ぐこととなります。今後の開発の方法はみなさんとともに考え、最善の努力

をいたします。これからも郷土の美しい自然の心を心としてがんばってください」とあいさつ。

続いて、村の発展に功労のあった元村長の秋田稔さん、西谷村史の編集に尽力された城町の吉田森さんらの表彰があり、最後に木下同村議長から「関係方面のご援助に感謝します。ありし日の村を思うとき、断腸の思いです。これからも善良な市民・県民となるように……」とあいさつがあり式典を閉じました。

西谷村民の健康と活躍を祈って、副知事の発声に合わせて万歳を三唱。記録映画「西谷村」を鑑賞のときには、なつかしさがこみあげてか、目がしらを押しさえるお年寄りの姿も見受けられました。

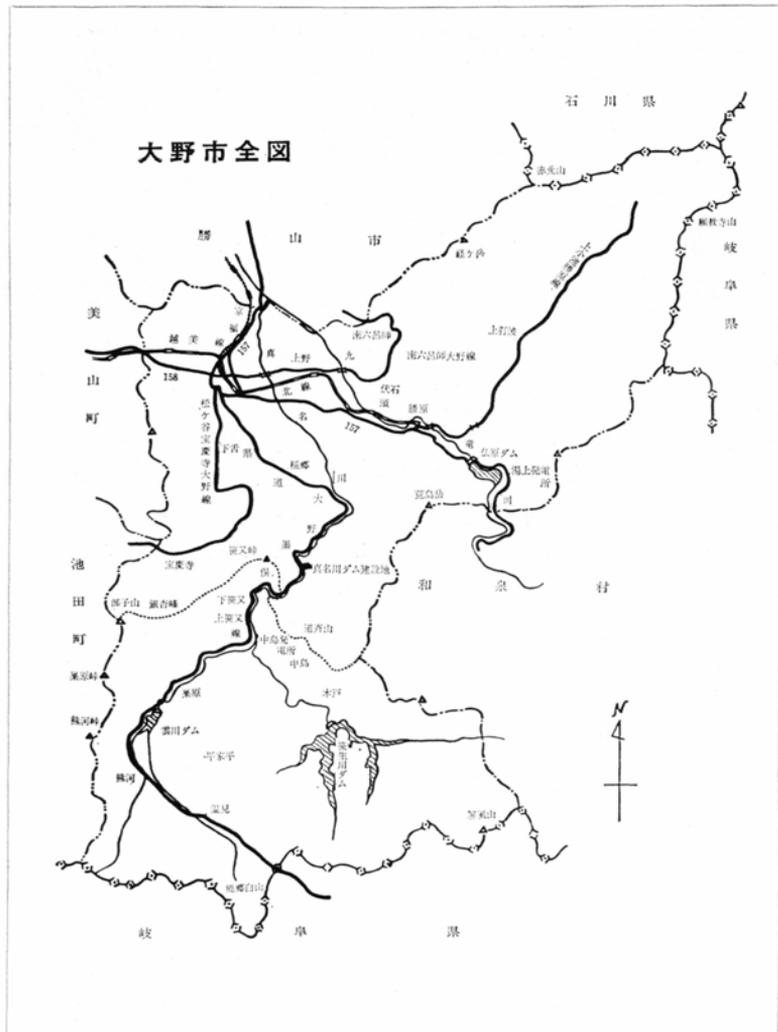
最後に村民一同が昼食を共にして、数々の思い出話をしたり新天地での健闘をたたえ合いました。

【1面からの続き】

※ 切ろうとした矢先、国が真名川流域の防災中心のダムを建設することになり全村が水没のため移住するという全国でも例のない廃村への道を余儀なくされました。

その後、昔から生活や文化などすべての面でつながりの深い大野市との合併気運が高まり、このための準備を進めてきました。詳しいことは、そのつど市報でお知らせしてきましたが、ここで改めて項目だけをご紹介します。

- ◎ 大野市西谷村合併協議会設置
昭和44年9月22日、同月24日知事に届出。
- ◎ 第1回合併協議会
同年10月8日 大野市役所
委員、大野市側19人、西谷村側15人
- ◎ 第2回合併協議会、同年10月17日
- ◎ 第3回合併協議会 同年11月24日
- ◎ 合併決議、同年12月1日
両市村の臨時議会で。
- ◎ 合併協議書の調印、同年12月2日
- ◎ 廃置分合（合併）について知事に申請、同年12月2日
- ◎ 県議会で議決、知事の決定
同年12月20日
- ◎ 自治大臣告示、昭和45年5月9日
- ◎ 合併成立 昭和45年7月1日。



旧西谷村の歴史

西谷村には縄文土器や石器などが発見されていることから、原始時代より人々が住み始めたものと考えられる。

西谷村には「平家」にまつわる伝説が多い。温見のマサカド祭り(平将門とは関係がない)、栗原の「平家踊り」や、栗原の近くに「平家ヶ平」という屋敷跡があることから、中世初期(鎌倉時代)ごろから、したいに部落が結成されてきたものと推定され、雲川流域は比較的早くから、笹生川流域はかなりおおくて開発されたとみられている。

【行政上の移り変わり】

従来大野領であったが、福井藩の滅封後、所領がいりまじった。

文化のころ(1803~1817)は上秋生・下秋生・小沢・本戸・黒当戸・中島・上笹又・下笹又の8部落は大野領土井藩で68石、栗原・熊河・温見の3部落は奥池田と称して池田に属し、栗原は郡上領青山藩で5石5斗、熊河・温見の2字は公料(天領)で12石であった。

明治初年の廃藩置県後、大野・敦賀・足羽・石川の各県に属し、明治14年以後は福井県となった。

明治22年、上記の11部落で西谷村を構成し、役場を中央の中島に置いた。

【産業と人口の動き】

村は耕地面積が少ない。昭和35年の記録では、全村445戸、うち農家が366戸。耕地総面積131.6㊦(町歩)1戸当たり面積36㊦、反当収量は120匁(8斗)、全村で

も約29トン(192石)にすぎないと記され、不足分は大野や池田から買った。それにもかかわらず経済力を保てたのは、古からの鉱山業と林業によってである。

温見の北に金山があって、隆盛をきわめ数百戸あった。特に有名なのは上秋生の北の中天井鉱山である。銅・鉛・亜鉛を出し、量が多いうえ、質もよく当時市街をなしていた。大野藩の所有で藩の金倉ともいわれた。鉱山が栄えたのは、中世期末から藩政初期と推定されている。

その後の主産業は林業である。昭和30年ごろは、年々130㊦を伐採し、用材1.279立方㊦(7,090石)、まき材623立方㊦(3,456石)、炭材12,213立方㊦(製炭にして16万8,530俵)を産出するほか、オウレンワサビや和紙を生産していた。

昭和15~26年ころまでは、この1.5~2倍を産出したといわれている。

戸数・人口は明治9年6月(敦賀県管轄区分表)には352戸、明治45年には戸数410戸、男1,409人、女1,271人、計2,680人の記録がある。昭和30年国勢調査では、585戸、男2,007人、女1,429人、計3,436人。災害直後の昭和40年国勢調査では246戸、男603人、女523人、計1,126人であった。

昭和32年、県営中島発電所建設で笹生川ダムができ、笹生川流域の小沢、下秋生・上秋生の3部落は水没し、本戸も移住した。昭和38年度の豪雪によって、熊河、温見部落の移住が起り、栗原、上下笹又、中島、黒当戸の5部落となり、人口、戸数とも半減した。

大野から中島までバスが通うようになったのは昭和6年。郵便局は明治17年中

島で開局した。

【教育】

学校の創設は古い。中島小学校は、明治8年2月、民家を借りて授業したのが始まり。その翌9年には、生徒数男40人女0人、教師1人であった。明治10年11月には栗原校を創設、翌11年11月には秋生小学校を創設した。その後校舎の新築を相次いで行ない、明治37年10月には熊河に、同40年9月には温見に、栗原校の分教場を設けた。

明治35年には、児童数436人、教師13人。昭和40年には小学校、児童数、255人、教師16人。中学校は、生徒数133人、教師13人、この年にはすでに秋生小学校が廃校になっており、中島・栗原小中学校の数である。

38年の豪雪と40年の災害により生徒数が減り、栗原小中学校は40年3月31日、中島小中学校も44年8月31日で、それぞれ90年以上の校史を閉じた。

【災害とダム建設】

昔からしばしば大災害にみまわれた。古くは元禄元年(1688)の大風害。嘉永元年(1848)には、裏日本一帯の大風水害で田畑・人家が多く損失し、安政元年(1854)4月5日には中島が全焼した。

明治21年にも大洪水があり、同24年美濃大地震では、熊河26戸のうち23戸が全壊、3戸が半壊した。大正元年9月の大洪水でも4戸が土砂に埋まった。

戦後は、昭和28年の13号、34年の7号台風、伊勢湾台風、続いて36年の第2室戸台風の出水など、人々は多くの災害に苦しめられてきた。大雪ともなれば3㊦以上も積もり、交通はとたえ、陸の孤島となった。生活用品の買い出しの途中「なだれ」で死亡した事故も数多い。

これら過去の災害にも増して、40・9風水害は真名川流域の歴史を一大転換させる大惨事となった。死亡2人、重軽傷者4人、流失・埋没家屋184戸、全道路が寸断、田畑もほとんど流失し、被害総額は46億円余にもなった。国ではこうした大災害が再び起きないよう九頭竜水系真名川ダムを建設することになり、村の大部分が湖底に沈むこととなった。

村民は44年中に移住を終え、大野市・県内外の新しい地で第2の人生を力強く歩み出している。これまでの数多い労苦に思いを寄せ、今後のしあわせを市民のみなさんとともに祈りたい。

(参考図書=大野郡史、真名川流域の民俗、西谷村のあらし)



18

平家踊り

「平家踊り」は、旧西谷村の栗原に伝わる踊りで、昭和37年5月、県の無形文化財に指定されています。

旧のぼんには日暮れから深夜まで、首からかけた太鼓の音頭にあわせて、男女入り乱れて踊ります。むかし平家のおちうどから習ったという伝説から、近年「平家踊り」といいますが、明治時代には「太鼓踊り」の名でした。

男声と女声が交互に重複して歌われるのが特徴です。男ヤ 向いの山をないだらよかる、ヤ 都が見えてなお



よかる、㊦ヤ 都が見えてなおよかる ㊦ヤ 都が見えて、ヤ 都が見えてなおよかる、㊦ヤ 都が見えてなおよかる。歌詞に古調をおびているところから相当古いものだと考えられます。

踊りは、しりふり・茶うす・かごめし・一つ返し・二つ返しの五種類です。写真は「平家踊り」を踊る栗原の人たち

富田地区に農免道路

6月市議会で決まる

＝一般会計補正予算＝

7,878万3,000円を追加し、予算総額は12億9,883万8,000円となりました。

【歳入】前年度の特別交付税を積立てておいた財政調整積立金からの繰り入れ金3,987万円、県支出金2,249万円、市債920万円、地方交付税417万円がおもなものです。

【歳出】

交通安全施設として歩道工事に47万円を追加し、七間線の寺町通りから越美北線の踏み切りまで、480mの歩道をつ

ります。

火葬場建設費に900万円を追加し、建設費は4,401万円になりました。これは、整地や電気・水道工事、取り付け道路を広くするための費用です。

し尿処理場を増設するため今年度分として2,058万円を追加しました。1日27^キ_リ (約150石)処理できる施設を2カ年でつくり、来年度も3,060万円をかけて仕上げる予定です。

ゴミ焼却場の「ろ」がいたんだので、250万円の修繕費を計上しました。

児童館の建設費用650万円が新しく組まれました。日吉町、山王公園に建てます。

富田地区に農免道路をつくるため、事業費2,184万円計上しました。この道路は、幅6.5^キ、長さ2,665^キ、国道157号線井ノ口地係から富島まで、同地区のほぼ中央部を通り、農業の振興と交通の混雑を避けることがねらいです。

総事業費7,800万円、3カ年計画です。すめることになっています。

林道の開設・改良に306万円を追加しました。これは、黒谷・河内林道のことし計画している1,000^キの不足分と、下打波・嵐線にかかる嵐橋のかけ替え費用です。

観光施設事業として、六呂師高原に便所をつくるため60万円を追加しました。

また、「城まつり」に50万円を追加し、合計100万円になりました。

市道の舗装工事に500万円、1,000^キ分を追加し、ことしは8,000^キ舗装できます。また、各市道を補修するために150万円、川を改良するため95万円を追加しました。

亀山公園を整備するため40万円を追加当初予算と合わせて70万円で、専門家に計画づくりを頼みます。

有終中学校グラウンドの夜間照明施設を昨年に続き100万円をかけてつくりま

す。婦人会から望まれていた調理室をつくるため90万円を計上しました。

第118回定例市議会は6月17日から26日まで開かれ、「昭和45年度一般会計補正予算案」など市長が提案した19議案が原案どおり可決・承認されました。おもなものは次のとおりです。

へき地の学校教育の振興のため、複写機などの備品を買う費用110万円を計上しました。

＝特別会計補正予算＝

◇旧西谷村国保事業

旧西谷村国民健康保険条例が定められ、この事業の特別会計予算ができました。予算額は705万円。

条例の内容は旧西谷村の加入世帯が納める保険料や加入者と保険者(市)が支払う医療費の割合が、今年度に限って村当時と同じであることを決めたものです。

◇北部都市計画事業

ことしからとりかかることになった北部都市計画事業の特別会計予算＝660万円＝が、新しくできました。

本格的な事業前の調査・測量など準備費用が大部分です。

◇公団分収造林事業

西谷村から引き継いだ公団分収造林事業(契約面積600^ヘ、新植済み300^ヘ)を続けるため673万円を補正しました。

ことしは、新植15^ヘ、育てるための管理費用203^ヘ分を予算化しました。

＝税条例を一部改正＝

市民税＝高齢者・障害者・か婦等の税金がかからない所得の限度を2万円引き上げ32万円となりました。

軽自動車税＝歩行困難な身体障害者が所有し運転する場合、税金が減免されていましたが、さらに同じ家族の人がこの人のために使う車1台に限り減免されることになりました。

固定資産税・都市計画税＝評価基準年度(45年)に評価した宅地などの価格が38年度の課税標準額を越えている場合、その上昇の程度によって、一定の割合で負担を軽くします。

いずれも45年度から適用します。

農業委員決まる

選挙によって選ばれたのは20人。第1・2選挙区では無投票当選、第3選挙区(富田・阪谷・五箇、定員7人)だけは6月25日投票、即日開票で当選が決まりました。

市議会、農業協同組合・農業共済組合が推せんした委員も決まりました。

新しい農業委員28人は次のみなさんです

【第1選挙区】飛川直治(東大月)、長谷川新兵衛(中荒井町1丁目)、斉藤斉之輔(友江)、川瀬真一(篠座上) 小林源左エ門(坂戸)、保格作男(下丁)

【第2選挙区】川越亀久雄(稲郷)、権守正勝(平沢)、穴田敬造(中西出) 伊東高司(猪島)、斉藤幸(北御門)、本多良三(上荒井)、杉本作兵衛(千歳)

【第3選挙区】田中生(蔵生)、中村徳明(南六呂師)、広瀬重孝(西勝原) 雨塚忠夫(塚原)、中山茂男(松丸)、松田庄二(森目)、山川政夫(柿ヶ嶋)

【市議会推せん委員】山田主治(野中)、竹島武雄(南新在家)、辻論(土打)、南正雄(田野) 田中新一郎(元町)

【農業協同組合・農業共済組合推せん委員】滝波与六(大野市農協)、伊東敬一郎(上庄農協)、鈴木与平(共済組合)

17回目の市制記念

39個人、17団体を表彰

大野市になってから第17回目の市制記念式典が、7月1日午前9時から市民会館で、関係者およそ300人が出席して開かれました。式は市長の式辞、市政発展に尽された17団体と39人の表彰、国民健康保険の優良世帯142世帯の表彰があって、最後に前市長森広治兵衛さんの発声で万歳を三唱して終わりました。

市長式辞の要旨

「今日の発展は市民のご協力の賜である今後とも教育・環境の整備、農業・商工業の振興、交通対策、行政事務の近代化、道路整備などの地域開発を進めていきたい市民の一層のご支援をお願いします。本日受賞された方々には深く敬意と感謝の意を表する。」

表彰を受けられたみなさん。

〔地方自治〕宮沢実(高砂町)、滝井泰蔵(日吉町)、〔産業〕朝日一重(西大月)、安川嘉一(中掘)〔学校教育〕金森澄子(中野)、国枝よし子(泉町)、前川勇(中荒井町)、風林登(伏石)、松村長子(南六呂師) 斎藤賢太郎(今井)、小林寿子(水落町)、山本竜馬(新町)、杉本正見(天神町)〔文化〕石田政治(中野)、〔社会教育〕吉田サキノ(城町)、松田清子(上野)、林みゆき(下打波)、金森一枝(中野町1丁目)、義景子供会育成会代表=明石守、〔社会体育〕長谷部清(下麻生島)、〔学校体育〕長谷川研一(本町)、〔社会事業〕築川基(新町)、永山てり(中野町3丁目)、広瀬一郎右エ門(泉町)、〔民生〕富田高砂クラブ連合会代表=棟朝高、飯田房吉(上丁)、三足光藏(花房)、亀谷四郎(泉町)、佐々木常太郎(中保)、石丸久吉(水落町)

スマイル

「サバ高値」

さてはサバをよんだな

— 半夏生

— コーナー

大谷忠次(上舌)、牛嶋みさを(中野町1丁目)、〔納税〕亀山下納税貯蓄組代表(以下同じ)細川和男、水落2ヶ河原弥生、銀座2丁目 山本忠次郎、四番上1 吉田泰四番下の2 土蔵慶一、五番上の1 山本護孝、旭東 川中喜一、西大月 佐々木信治、上荒井 田中菊松、千歳 杉本作兵衛



賀子、〔消防〕田中義雄(高砂町)、清水信夫(小矢戸)、梅田政義(庄林)、横田甚光(大月)、原田繁(橋爪)、〔職員〕森本利勝(保険衛生課)

写真は表彰を受ける市政功労者

開発 長田昭彦、下郷 猪野薫、(個人) 新谷樵(東中)、玉木守(元町)、〔保険衛生〕松田勝(右近次郎)、富田母子愛育会代表=松田嘉代子、山ばと会(上庄)代表 山田弘子、白ゆり会(乾側)代表=南部千

市長選挙日程決まる

投票日は8月2日

大野市選挙管理委員会は6月12日、委員会を開き、8月9日任期満了になる市長選挙と、市議会議員補欠選挙(定員1名)の日程を次のように決めました。

告示 7月23日
立候補届出締切日 7月24日
投票日 8月2日

◇…選挙時登録の基準日は7月22日

◇…選挙人名簿の縦覧は、7月24・25日の2日間、市民課で行なわれます。自分の名前がのっているかを確かめてみましょう。

◇…昨年の本紙7月号でもお知らせしてありますが、選挙人名簿の登録方法が、昨年7月から変わっています。

以前の申し出制度が廃止になり、住民基本台帳に登録されている選挙資格のある方は、選挙管理委員会の「職権」で登録されることになっています。



「万博」の楽しい見方

夏休みを間近に控え、家族連れで万博見学を計画しておられる家庭も多いことでしょう。

そこで、万博協会から寄せられた楽しい見方をご紹介します。

1、なるべく平日にご観覧を。日曜・祝祭日には約60万人の出入が予想され、会場内は相当混雑します。

ナショナルデーやスペシャルデーの催しは平日にあります。

2、マイカーはなるべくおさげください。会場周辺の交通マヒや駐車場の不足が考えられます。

3、入場券は出発前に近所のタバコ屋

さん、駅の売店などで買っておきましょう。会場入口の入場券発売所は混雑します。

4、ラッシュ時間帯はさげましょう。

午後10時30分まで開場していて午後5時以後は、入場料金が半額になります。

ふえている飲酒運転 ほしい1人1人の自覚

ことしになってから、大野署管内で起きた交通事故は193件(6月15日現在)、昨年の同期に比べて約56%ふえています。

このうちでも飲酒運転による事故16件167名増、酒酔運転の検挙数が54件93名増と「酒」が原因の数がふえています。

このふえ方は、県内のほかの市町村に比べて断然多く、その運転者のほとんどが大野市民であることは誠に残念なことです。

便利な車も運転を誤まれば凶器に早変わり、尊い人命を奪います。

「飲んだら乗るな」「乗るなら飲むな」は絶対守りましょう。

飲酒運転の実態()は昨年

項 目	事故件数	左のうち 飲酒件数	酒酔検挙数
1	33 (10)	3 (2)	3 (1)
2	30 (14)	0 (0)	5 (6)
3	44 (26)	4 (0)	16 (5)
4	39 (27)	5 (2)	15 (4)
5	38 (30)	4 (1)	6 (6)
6	9 (17)	0 (1)	9 (6)
計	193(124)	16 (6)	54(28)

市報短信

◇重要文化財の屋根ふき替え◇



市教育委員会は宝慶寺にある国の重要文化財「橋本家住宅」の屋根を、6月9日・10日の両日同部落の岡本政一さんら7人に頼んでふき替えた。

現在あき家になっており、いたみのひどい両ヅマ約50平方メートルを、新しいカヤでふきなおしたものだ。この家は約250年前の江戸中期に建てられたもので、ケタ行13.8間、梁間9.5間寄棟造り。豪雪地帯の代表的な農家として貴重なもので、昨年12月18日、国から重要文化財の指定を受けた。この指定は市では初めてのことで、今後、管理が行き届くよう、移転することも考えている。

◇慣れぬ手つきで実験◇

県の移動科学センターが6月20日市役所で開かれた。婦人会員や生活学校生ら約30人が集って、ソーセージなど約20点を検査してもらおう一方、係員からじょうずな買い物のしかたの話や聞いた、品質表示の映画を見て勉強した。

また、「うどん」の中に漂白剤がはいっているかどうか、技師の指導で自分たちが実験もしてみた。

これは、県が消費者保護行政のひとつとしてことしから始めたもので、車に検査器具や薬品を積んで県内各地を回り、消費者から親しまれている。

国民年金大幅に引き上げ 保険料も一律450円に

国民年金法が改正され、7月から老齢年金など各種年金が大幅に引き上げられました。

◇…老令年金(年額)

25年納めた場合 6万円が9万6,000円に
40年 " 9万6,000円が
15万3,600円に

◇…障害年金(年額)

1級 = 7万2,000円が12万円に
2級 = 6万円が9万6,000円に

◇…母子年金(年額)

こどもひとりの場合

5万5,200円が9万1,200円に

このように年金額が増額されたので、保険料もこれまでの25歳未満の250円、35歳以上の300円から年齢に関係なく450

円となりました。まちがいのないように納めましょう。

ところで、この保険料を納めなかったり納めるのが遅れたりしますと、加入しているながら肝心のときに障害・母子年金などが受けられない場合がありますから注意してください。どうしても納められないときは、納付を免除する制度がありますからご遠慮なく市民課で相談してください。

人事異動

西谷村との合併による職員の引き継ぎと定年退職に伴う人事異動を7月1日付けで発令しました。

()内は旧任

〔市長部局〕 市民課長=水上太右エ門(市民会館長)、市民会館長=佐々木徳(乾側公民館長)、総務課庶務係長=山中幸蔵(市民税係長)、市民税係長=加藤弥市(税務課)、税務課=大倉美代子(市民課)、農務課=松田八重子(体育課)、建設課=竹内安注(林務課) 総務課付=安倍繁樹(市民課長) 林務課=松本勇夫(西谷村)、建設課=沢田利栄(西谷村)、税務課=野田実(西谷村)、市民課=栗下ツヤ子(西谷村)、建設課(用務員)=道下静男(西谷村)

〔教育委員会部局〕社会教育課長=笠松常和(総務課庶務係長)、大野公民館長=永見繁雄(社会教育係長)、社会教育係長=幅口芳枝(社会教育課)、下庄公民館長心得=深見不可止(大野公民館)、乾側公民館長心得=花山長右エ門(税務課)、大野公民館=平鍋金一(郷土歴史館)、体育課=松原定子(大野公民館)、社会教育課=中村洋子(農務課) 庶務課付=日下健太(大野公民館長)。

おわびして訂正します

41年10月1日、市が発行した「住居表示新旧対照案内図」のうち、次の箇所がまちがっていましたので、おわびして訂正します。

- ① 有明町12番、「清滝公園」を「駅東公園」に改めます。
- ② 美川町12番、「駅東公園」を「三角公園」に改めます。

46年度歌会始の お題は「家」

昭和46年度歌会始のお題は「家」と定められました。お題の「家」は具体的な建物の「家」ばかりでなく、抽象的な「家庭」の意味も含まれています。

- ・ 詠進歌は1人1首限りとし、未発表の歌。
- ・ 詠進の期間は、9月1日から10月12日まで。

このほか、書き方、送り先など詳しいことは、企画室へお問い合わせください

お知らせ

開眼検診をします

目が角膜混濁や老人性白内障にかかり視力が衰え失明寸前の人は、角膜移植または開眼手術を受けますと視力を回復することができます。

ただしヤニ目、黒ソコヒ、あおソコヒ、サカマツゲ、トラホームの場合は除きます。

これらの人たちに光明を与える目的で次のように開眼検診をしますから、該当すると思われる人はすすんで受けてください。

と き 7月23日(木)

午前10時から午後4時まで

と ころ 大野保健所

なお、65歳以上の老人性白内障の開眼手術に要する費用は公費で支払われます

法人企業統計調査にご協力を

ことしの3月31日現在で、県の法人企業統計調査が、6月25日から7月10日の

間に行なわれています。

対象となるのは県内で事業を営んでいる合資・合名・株式・有限各会社の本社および県外に本社のある事業所で、このうちから決められた割合によって選出されます。選ばれたときにはよろしくご協力を願います。

16%映写機操作技術認定講習会

子供会の活動に、部落の行事に、いろいろな学習会に、「映画」はよくわかる教材として使われています。2日間の講習会で映写機を動かせるようになり、県教育委員会から免許証をもらえます。

ふるって受講してください。

と き 7月22・23日、時間は両日も午前9時から。

と ころ 市役所大会議室

申込み 7月15日までに市社会教育課または近くの公民館へ。

「城まつり」は8月15・16日

市民あげての城まつりに、郷土の民謡踊りと奥越太鼓を中心として伝統をつくろうと企画委員会や実行委員会で計画づくりをすすめています。

城まつりは、旧盆の8月15・16日の2日間の予定です。詳しい行事の内容は8月号でお知らせします。

レントゲン検診通知もれの方は

7月2日から9月にかけて結核予防のためにレントゲン撮影を実施します。

日時と場所を書いた通知を各家庭へお送りしてあります。学校へ行っている人会社や官公庁などの職場で年1回以上受けられる人は除きますが、ほかの人はみんな受けなければなりません。もし通知



社会体育 コーナ

- ・ 下庄地区体力づくり推進大会
12日午前8時～下庄小
- ・ 下庄地区お母さんバレーボール大会
12日午後1時～下庄小
- ・ 阪谷地区体育大会
12日午前8時～阪谷小
- ・ 小山地区バレーボール大会
12日午前8時30分～小山小中
- ・ 第12回下庄地区総合体育大会
19日午前8時30分～下庄小
- ・ 第13回市民総合体育大会(球技と相撲)
26日午前9時～有終中ほか

もれのときは保険衛生課でお尋ねください。

上庄地区に無人電話交換局誕生

上庄地区に新しく無人の自動電話交換局4局が開局します。7月24日午後3時から開始し、電話番号は4局1000台になります。

新交換局収容地域は次の部落です。

野中、稲郷、森山、西山、東山、御給友兼、開発、森政地頭、下郷、佐開、五条方、木ノ本、平沢、今井

◎ 有線放送の電話番号だけは、これまでどおり「6局5811番」で変わりません。

＝番号をメモしてダイヤルを＝

新交換局収容地域内の電話は番号が変わりますから、おかけになるときは上庄局(4局)電話番号表、または「104」で確かめてから、ダイヤルしてください。

—大野電報電話局—

去る四月二十八日公布、来る八月二十日から施行の道路交通法の改正は相当きびしいものになりそうだが、ますますふえる交通災害をみるとしく当然といえる。中でも、少年(十六才以上)にも適用されることは、当人はもちろん保護者たちがこの際積極的に理解につとめ協力しなければならぬと思う。▼特にこのうっとうしい梅雨が明ける夏場は学校の暑中休暇も手伝って青少年の交通事故が多い。抑圧感を自動車やオートバイの超スピードで安易に解放させようとする。それはカッコイイ? ことにも通じるし、直接ハダで感得できる肉体的心理的な衝動的行為でもある。▼仮に少年たちの無免許運転を黙視している保護者や近隣の人たちがあつたとしたら、これは社会的罪悪である。悲劇はひとりその本人のみに終らず他の人たちに被害が及ぶことだ。交通災害といわれるゆえんは何の罪もない人たちがその巻き添えをくうことにある。人的な面での規制は飲酒運転を筆頭にいろいろとある。交通巡視員制度の採用は現在のところ人口二十万以上の都市だけが巡視員の強化がなぜ必要なのか大いに反省する必要がある。▼また一方では物的な面での改正も種々ある。中でも自転車専用道路の設置は実施までにはまだ相当の年月を要するであろう。▼法にはなくともこれらと並行して歩行者自身が、危険から身を守る行動や習慣を身につけねばなるまい。激増しつつある交通事故が免疫化されて無感覚になることは恐ろしいものはない。災害は他人ごとではない。四人に一人の割合でヒタヒタとわれわれ自身に迫ってきている。道交法改正実施を目前にひかえて家族ぐるみで反省と勉強をしよう



去る四月二十八日公布、来る八月二十日から施行の道路交通法の改正は相当きびしいものになりそうだが、ますますふえる交通災害をみるとしく当然といえる。中でも、少年(十六才以上)にも適用されることは、当人はもちろん保護者たちがこの際積極的に理解につとめ協力しなければならぬと思う。▼特にこのうっとうしい梅雨が明ける夏場は学校の暑中休暇も手伝って青少年の交通事故が多い。抑圧感を自動車やオートバイの超スピードで安易に解放させようとする。それはカッコイイ? ことにも通じるし、直接ハダで感得できる肉体的心理的な衝動的行為でもある。▼仮に少年たちの無免許運転を黙視している保護者や近隣の人たちがあつたとしたら、これは社会的罪悪である。悲劇はひとりその本人のみに終らず他の人たちに被害が及ぶことだ。交通災害といわれるゆえんは何の罪もない人たちがその巻き添えをくうことにある。人的な面での規制は飲酒運転を筆頭にいろいろとある。交通巡視員制度の採用は現在のところ人口二十万以上の都市だけが巡視員の強化がなぜ必要なのか大いに反省する必要がある。▼また一方では物的な面での改正も種々ある。中でも自転車専用道路の設置は実施までにはまだ相当の年月を要するであろう。▼法にはなくともこれらと並行して歩行者自身が、危険から身を守る行動や習慣を身につけねばなるまい。激増しつつある交通事故が免疫化されて無感覚になることは恐ろしいものはない。災害は他人ごとではない。四人に一人の割合でヒタヒタとわれわれ自身に迫ってきている。道交法改正実施を目前にひかえて家族ぐるみで反省と勉強をしよう

財政公表

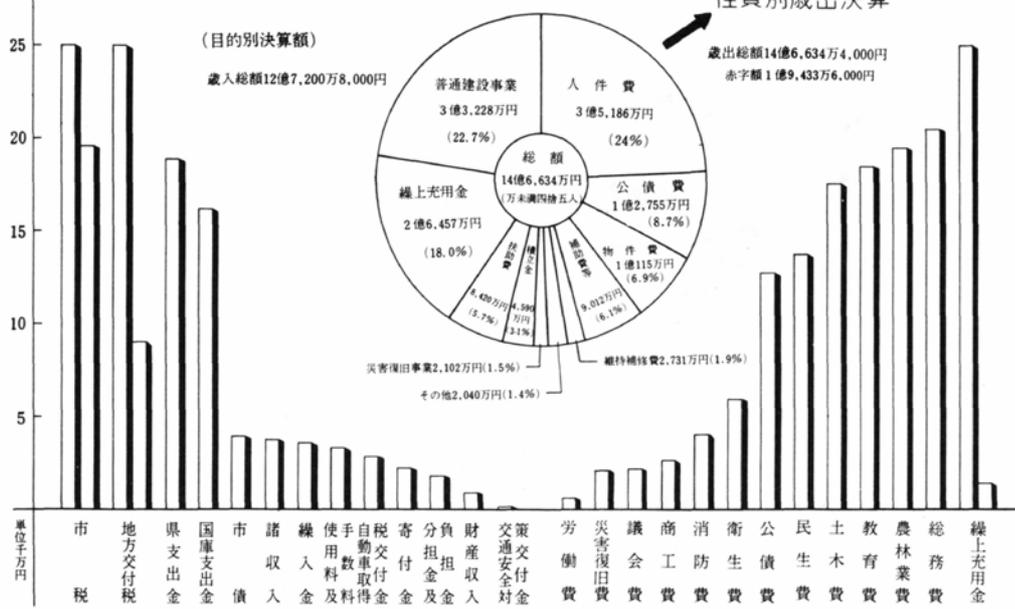
大野市の財政がどのように運用され、
あなたが納められた税金がどのように
使われているかを、みなさんに知っていただくために公表いたします。



発行
福井県大野市天神町1番1号
大野市役所
電話(代) 6-1111
郵便番号 912
印刷 松浦印刷所

人口 43,256 (住民基本台帳7月1日現在)
43,747 (昭和40年国勢調査)
世帯数 10,131 (住民基本台帳7月1日現在)
9,729 (昭和40年国勢調査)
面積 541.66平方キロメートル

昭和44年度普通会計決算の状況

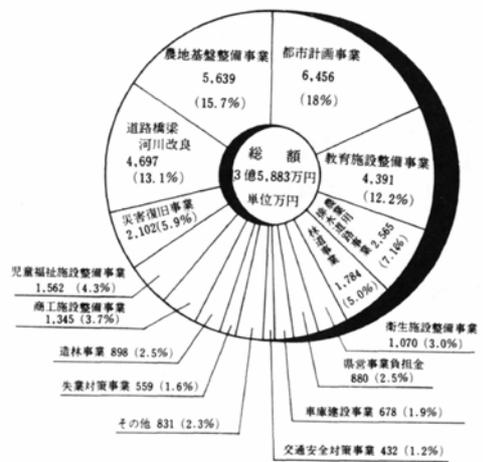


昭和四十四年度特別会計決算の状況

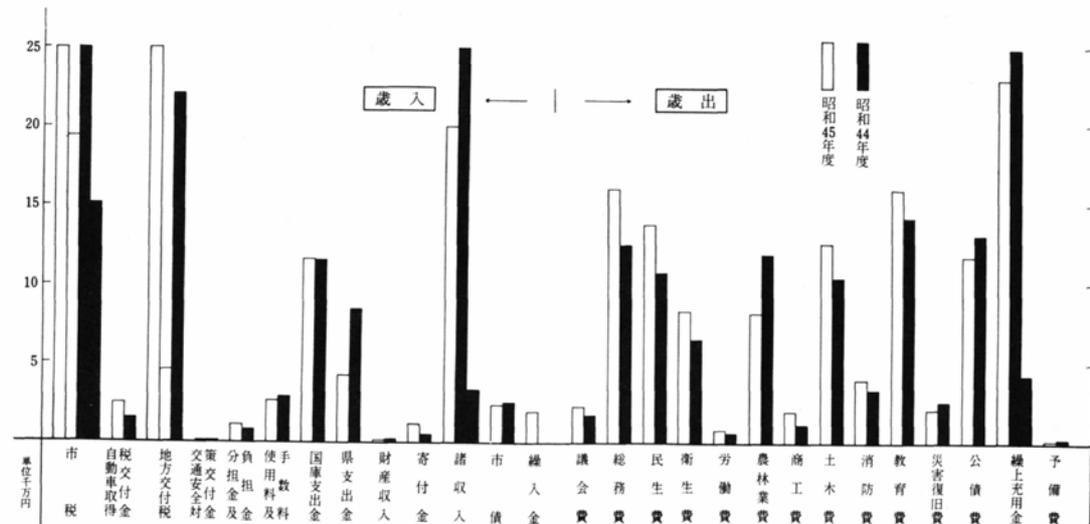
国民健康保険事業 歳入 2億5,222万3,000円 歳出 2億3,770万4,000円 被保険者22,790人 1人当り診療費 (保険者負担分) 4,549円 保険税 13,366円	食肉処理事業 歳入 345万7,000円 歳出 420万6,000円 と殺頭数 成牛515 小牛4 ブタ623 ヤギなど10
簡易水道事業 歳入 1,325万4,000円 歳出 1,222万9,000円 施設 5カ所 給水人口 4,821人	南部土地区画整理事業 歳入 5,274万1,000円 歳出 4,492万8,000円 事業面積 37.7% 宅地 30.0% 道路・水路・公園 7.7%
五箇診療所診療事業 歳入 180万円 歳出 180万円	

昭和四十四年度建設事業の内訳

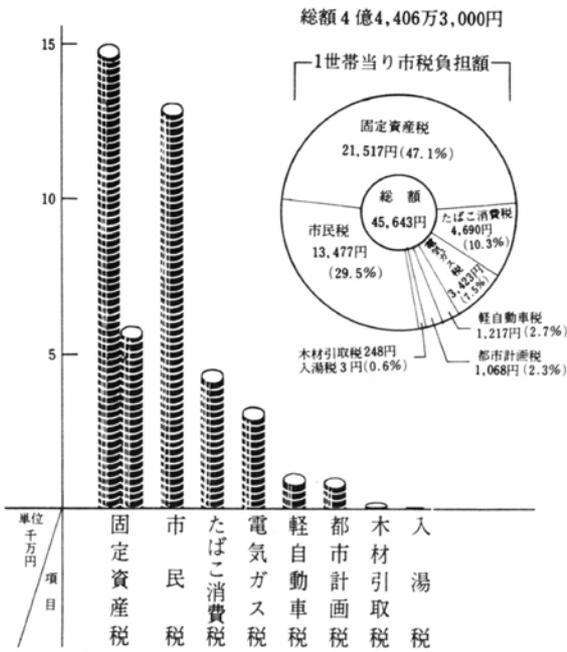
(万未満四捨五入)



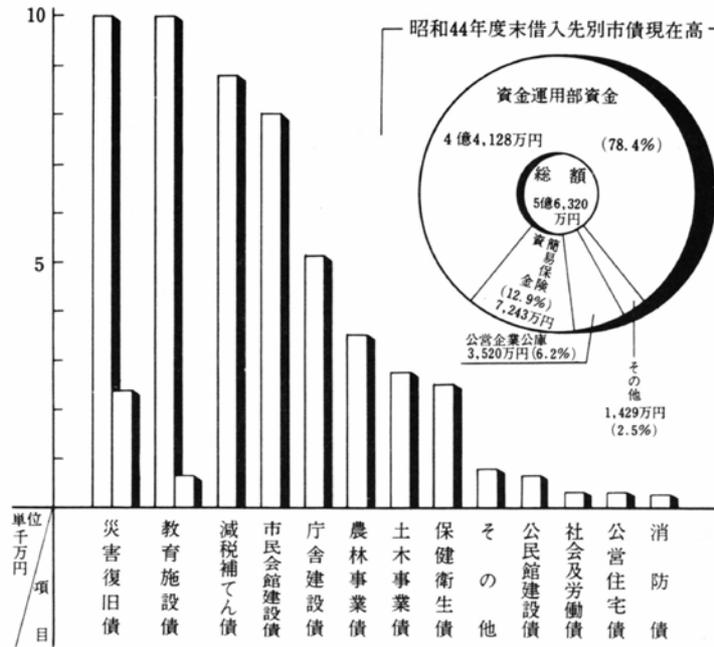
昭和四十四・四十五年度当初予算



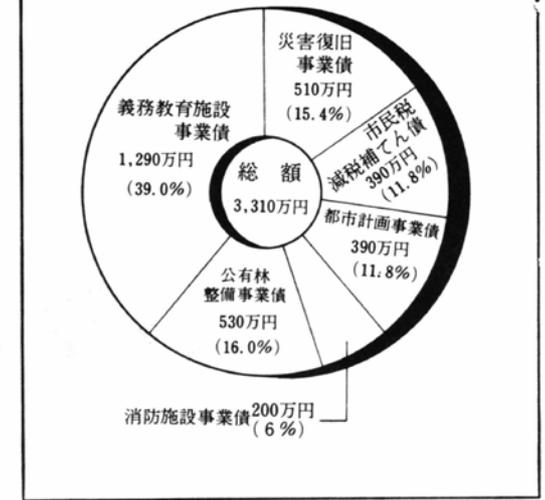
昭和44年度市税の収入状況



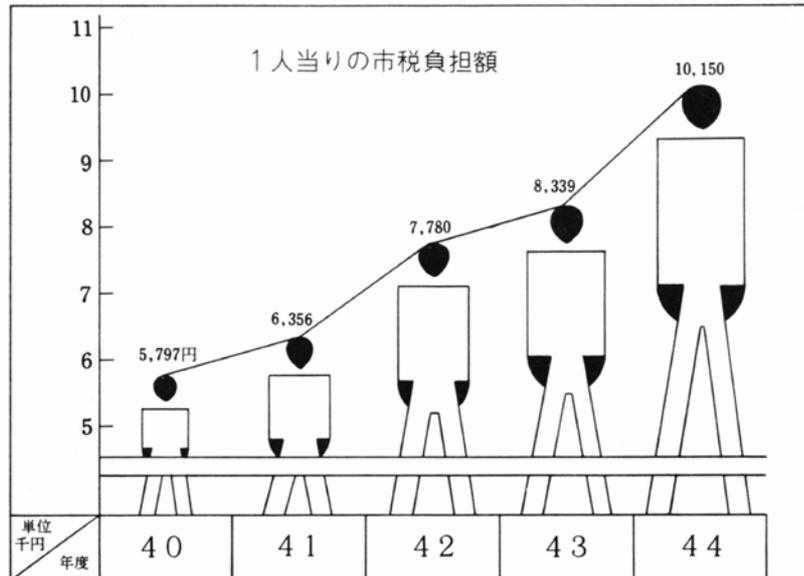
昭和44年度末目的別市債現在高



昭和44年度市債借入れ状況



公有財産 (昭和45年3月31日現在)



<p>建物 85,340平方メートル (約25,861坪)</p> <p>宅地 365,224平方メートル (約110,674坪)</p>	<p>山林その他 260.2ヘクタール</p>	<p>有価証券 267万円</p>
<p>出資金 509万1,000円</p>	<p>基金 5,753万8,000円</p>	<p>自動車 (消防自動車を含む) 37台</p>